

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

SK2021096

S2021052

神機構-1079

③ 施設名等

名称：	箱根恵明学園
施設長氏名：	田崎 吾郎
定員：	45名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	1949/11/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人箱根恵明学園
職員数 常勤職員：	31名
職員数 非常勤職員：	5名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	14名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	18名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の人数：	
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	個室（22）、2人部屋（10）、3人部屋（1）
施設設備の概要（イ）設備等：	親子訓練室、自立訓練室、医務室、心理療教室
施設設備の概要（ウ）：	ブレイルーム、交流ホール
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

<基本理念>

『つぼみから花へ』

～子どもがすくすく育つために～

- 1 【土壌】 成長が守られる環境をつくります（安全・安心）
- 2 【水】 「食」を大切にし、心も愛情で満たします（食育と健康）
- 3 【陽】 分け隔てなくひとり一人を照らします（教育）
- 4 【支柱】 生きる力を育て寄り添い支えていきます（自立支援・アフターケア）
- 5 【観察】 のびのびとした育ちを見守り、つまづいた時には手を差しのべます（自己尊重）

⑤ 施設の特徴的な取組

○月1回、各ユニットで「子ども会議」を開催して、子どもたちの声を聞いている。また、意見箱「みんなの声」を、各ユニットに2ヶ所、職員室横に1ヶ所設置している。「みんなの声」の設置場所は、子どもたちが決めている。年2回、子どもたちに「安全感・安心感尺度」のアンケートを実施し、園内での生活不安などを把握している。職員は「3つの心得」（①私たちは児童を差別することなく平等に関わります。②私たちは児童の最善の利益を追求します。③私たちは児童の模範になることを忘れません。）を、申し送り時に読み合わせをする他、「人権チェックリスト」や「言動・行動アンケート」に取り組み、子どもたちの最善の利益に向け、日々研鑽している。

○バランスの取れた献立を栄養士が立て、実際の調理は、各ユニット内のキッチンで保育士が行っている。調理の際はキッチンを離れられないため、子どもたちも側にいて、話をしたり、相談をしたりとコミュニケーションの場としている。子どもたちは、実際に調理をしている場面を常に見ているため、自然と作り方を覚え、残った材料を工夫して自分で調理している子どももいる。小さい子どもには絵本の読み聞かせなどを行いながら、安心して入眠できるよう支援している。大きい子どもも、寝る前の時間にできるだけ1対1の時間を作るようにして話を聞いている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/6/8
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/2/20
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和2年度（和暦）

⑦総評

○令和元年5月、現在の園舎に移転している。移転にあたっては旧町立温泉小学校の建物を改築し、交流ホールを境に、箱根恵明学園と恵明学園小学校に分かれている。同じ建物内であるため行き来は可能だが、生活の部分と学校の部分とのけじめをつけるため、入口は別になっている。子どもたちは6つのユニットで生活し、小学生は恵明学園小学校に通い、2学年合同の複式授業で学んでいる。

○子どもたちは、混合寮や女子寮、男子寮の小規模のユニットで生活している。小学高学年以上は個室を利用しているが、小さい子どもは、一人は寂しいと友だちと一緒にいることが多く、子どもたちの希望で、夜はドアを開けている。建物は広く、明るく、清潔であり、子どもたちも大事に使っている。居室にはぬいぐるみやアイドルの写真など、自分の好きな物を置き、それぞれが居心地の良い空間を作り上げている。図書室や音楽室、大きな交流ホールなどがあり、室内でも身体を使った遊びができるようにしている。

○ユニットを「家庭」として、職員はユニット内の子どもの生育歴や生活歴、入所理由などをすべて把握して支援している。子どもが感情をコントロールできず、時には職員への暴言や暴力につながる場合は、表面の行動だけを捉えるのではなく、その時の心の中の思いを聞き、その思いにどう対処していったらいいのかを考える機会を設けている。

○家庭で身に付かなかったことを補うのではなく、今後の生活で必要不可欠なことを身に付けていくことが、園で行う家庭教育と考えている。人間関係ではコミュニケーションが必要であり、挨拶をする、ごめんなさいが言える、敬語を使うことなどを基本とした教育を行っている。友だちや職員との関係、地域の人たちとの関係を大切にしている。

○小さい子どもには、トミカやレゴ、積み木、ブロックなど、年齢に合ったおもちゃや絵本を揃え、知育や運動面での発達を促す遊びができるようにしている。また、各ユニットで希望の新聞を取って読むなど、中・高校生は社会情勢も学べる機会を作っている。中学生は町の社会福祉協議会の協力のもと、土曜塾に通っている。サッカーや卓球などの部活に打ち込んでいる中学生もいる。高校生の中には、美術が得意で黒板アートなどの作品を作っている子どももいる。

○日々の生活の中で、生活のスキルを上げられるよう取り組んでいる。中学生以上は自分の部屋の片付けや掃除、洗濯などができるよう働きかけている。食事はすべてユニットで作り、子どもたちの目の前で調理をしている。自立支援計画に基づき、卒園間近になると、子どもたちは自立訓練室で一人暮らしの体験ができるようにしている。

○中学生になると、どこの学校に進むか、進路についての話し合いを行っている。園から通学するのか、家からするのかなど、家庭支援専門相談員と話し合っている。園からであれば生活の継続について、家からであれば家の環境や保護者の養育力などを確認して進めている。進路担当職員が高校進学のための情報を提供し、見学などの支援を行っている。進路選択は、本人の希望を第一に考え、家族や学校、児童相談所などと協力している。

○家庭支援専門相談員が窓口となり、家族との信頼関係作りに取り組んでいる。また、児童相談所と連携して行っている。家族の状況や子どもの希望を確認して、面会や外出、外泊などの段階を踏んで、交流のプログラムを進めている。ステップアップ時は、保護者を含めミーティングを行い、状況を確かめ合いながら進めている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回初めて評価をお願いしました。運営、直接処遇職員との話から日常の養育について意見聴取をしていただき施設の現状が把握できたと思います。自分たちで施設を評価することにより施設がどのように運営され、自分たちの養育の姿勢を確かめる機会となっています。今回の評価結果を受審前の評価と比較することで新たな養育に向けていきます。当園が大事にしている「食育」について評価いただけたことは職員の励みになります。良い評価を受けるために良い養育を目指すわけではありませんが、この評価結果をより良い養育に繋げたいと思います。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b
<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○

<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【コメント】

基本理念と職員の3つの心得をラミネートシートでまとめ、全職員に配布している。基本理念と3つの心得とも、全職員で協議して決定している。各ユニットでは毎日、申し送りを行っているが、月曜日の申し送りの際には、出席職員全員でラミネートシートの読み合わせを行っている。子どもや保護者には、入所の際にパンフレットを用いて、基本理念を説明している。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○

【コメント】

園の経営状況については、園長や書記が、法人の監事から助言を受けながら把握している。地域の情報は、中学校のPTAや評議員会で把握する他、自治会や地域の青少年育成会などの活動や会議を通して把握している。県内外の児童養護に関わる会議に、園長や職員が出席して、社会福祉事業全体の動きや情報の収集に努めている。「全養協通信」などの必要な情報は、書記から職員に回覧したり、月1回開催する職員会議や運営会議、月2回開催する支援検討会議などで周知に努めている。

② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

園長や副園長、書記が理事会に出席して、事業報告及び計画でのこれからの課題について、話し合いを行っている。物価の高騰や光熱水費の増額など、生活費の負担増による財務状況を課題として捉え、諸会議で協議して取り組んでいる。光熱水費は現在は多少落ち着いてはいるが、一時は2年前に比較して1.5倍から2倍に増加している。職員には常に節約を促している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。

【コメント】

県と協議しながら、社会的養育推進計画を策定している。今年度より社会的養育推進計画の勉強会を開催し、これまでに2回行っている。勉強会には各ユニットのリーダーだけでなく、現場の職員も参加している。そのため、計画の説明の前に、措置費や給与の仕組みなどについても触れている。勉強会を通し、園の考える中・長期の方向性の理解を促している。健全な施設運営を目指すため、子どもの入所率を90%以上、職員定数の確保など、今後の運営に影響が出ないよう取り組んでいる。国のビジョンや県の計画とギャップが出ないよう、国や県の動向を確認したり、県とのヒアリングを繰り返し行っている。

②

5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。

b

単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。

単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。

単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。

単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。

【コメント】

前年度の報告を踏まえて、次年度の事業計画を策定している。中・長期計画を踏まえ、子どもの入所率や権利擁護、人材の確保や育成についても定めている。3年前の子どもに対する暴言で県より指摘を受け、現在、改善事業に取り組んでいるところである。現場の具体的な取り組みを、法人全体に報告し、次の取り組みにつなげている。規程類の見直しも行っている。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①

6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。

b

事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。

計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。

事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。

評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。

事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。

【コメント】

各ユニットの職員の声を聞き、前年度事業を評価して、園長と副園長、書記の3人で事業計画を策定している。行事の開催後には、その都度、職員から意見や感想を聞いて、事業計画に反映している。策定した事業計画書は全職員に配布し、年度末の職員会議で内容を説明している。中学校の部活のスケジュールが把握しきれず、園の行事に中学生が参加しにくい状況がある。

②

7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。

b

事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。

事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。

事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。

事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。

【コメント】

園の取り組みは、ホームページに掲載し、理解を深めてもらうようにしている。ブログなどの写真を見て、子どもの様子がよくわかるとの保護者の声もある。保護者には、行事の案内を送っているが、参加を決めていても直前にキャンセルすることが多い。事業計画の内容も簡単に説明している。月1回、各ユニットで「子ども会議」を開き、子どもが議長と書記を担当し、会議録も子どもが作成している。「子ども会議」では、行事の予定を説明する他、子どもたちの声や意見を聞いている。子どもたちからは、献立のメニューの希望やレクリエーションの希望などが多くあがっている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に乗受している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

年2回、全国社会福祉協議会が作成した「人権チェックリスト」に職員が取り組み、副園長が内容を確認している。職員会議の後半の時間を活用して、各ユニットの職員が「今、困っていること」を話して意見交換を行っている。ベテランや新任職員の意見、ロールプレイを通して、児童支援だけでなく、職員自身の思考やストレス改善などを話し合っている。3年前に改善通知を受けたことから、養育・支援が権利侵害につながるよう、今年度より年3回、「言動・行動アンケート」を実施している。「言動・行動アンケート」は、気になる言葉遣いを職員から集め、書記が30のチェック項目にまとめている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

【コメント】

第三者評価の結果は全職員に配布して、職員会議で副園長が課題を話し、共有を図っている。3年前の改善通知からの取り組みの内容とリンクして、職員全体で解決策を検討している。改善計画は、理事会を中心とした計画で、3ヶ月に1回、取り組みについて話し合いを行っている。各ユニットから職員が1名参加して、月1回、職員の育成定着委員会や、アドボカシーアプローチ委員会、人材確保委員会、生活安全委員会を開催して、計画的に改善策を実施している。「意見箱」の設置数も増やしている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

園長の役割と責任については、「職務分掌」に明記している。また、年2回発行する園の広報誌「箱根恵明だより」には、必ず園長が寄稿して、役割や責任だけでなく、子どものことや児童養護全体について触れている。「箱根恵明だより」は、後援会関係や関係機関、文化体育協会などに広く配布している。災害時の対応については、別のマニュアルに、園長の役割を明記している。園長不在時の対応も、分担を決めている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

園長は現在術後の体調改善のため、外部への出張などを控えている。代わりに副園長が、全国児童養護施設協議会や県社会福祉協議会など、外部の施設長向けの研修会に出席している。また、児童相談所が開催する研修にも参加している。子どもの人権や権利擁護については、園長が職員会議や申し送り時に話している。職員会議は勤務の都合で途中から参加する職員もいるため、園長の話は、職員会議の途中で行うことが多い。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

支援検討会議や運営会議、職員会議に園長が出席して、運営上の決定事項や経営に関連する話をしている。各ユニットの日記に目を通し、毎日の申し送り時に、気になる子どもについて、質問や確認を行うことがある。日記の返却時には各ユニットに足を運び、ユニット内の子どもや職員の様子を確認している。園長は昨年度まで、県文化体育協会の会長を担っていたことから、園内外の行事には、でき得る限り出席している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

理事会にて、労働環境や経営について話し合いを行い、改善に向けて取り組みを進めている。また、専門分野の理事のアドバイスを受けている。県の改善通知に対する取り組みは、理事会での協議、園にての実行、理事会への報告、県への報告の流れで行っている。園長が園内の実行について、協議に参画し、意見交換を行って、良好な運営を目指して活動している。

【コメント】

働きやすい職場作りとして、住み込みの職員が多い中、通勤勤務を取り入れたり、断続勤務ではなく継続勤務をシフトに入れたり、休憩室の確保などに取り組んでいる。また、職員寮のWi-Fi設置などを行っている。有給休暇の取得状況は、書記が定期的に確認している。勤務シフトは各ユニットで作成しているが、休みの日の間隔が長くないよう注意している。職員の福利厚生として、職員ハイキングなどを助成している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

目標管理の仕組みは取り入れていない。園長や副園長との個人面談で、職員自身が感じていることは確認している。新任の職員については、入社後2~3ヶ月間、希望があればもう少し長く、副園長やユニット職員と「振り返りノート」を使用して、達成できたことや、疑問に感じたことなどを記入している。先輩職員からのアドバイスをもらうなどのやり取りを行って、育成に向けた取り組みを進めている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○	

【コメント】

専門的なスキルの向上を目指し、職員の研修会の参加を積極的に行っている。園内の各委員会の活動も、職員一人ひとりの教育を担っている。個別の研修計画は作成していないが、毎年定例の研修については、参加を計画している。参加条件が特にならない研修は、各ユニットにて参加する職員を決めている。外部研修に参加する職員は、事前に参加目的を設定することとしている。参加後は、報告書を提出し、職員会議の後半部分で内容を報告している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
(社会的養護共通)		
<input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○	

【コメント】

職員の資格取得の希望は、資格取得補助制度を設け、園長の承認のもと、受験料や旅費、参考資料の購入費などの助成を行っている。経験年数や職種など対象の指定がある研修には、条件を満たす職員を派遣している。スーパーバイザーという肩書きの職員は配置していないが、副園長や主任児童指導員、主任保育士がその役割を担い、職員に対してスーパービジョンを提供している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

主任保育士を窓口にして、実習生の受け入れを行っている。事前にオリエンテーションを実施し、実習ユニットでの振り返りの時間を設け実習の意欲向上を促している。児童養護施設を知らない学生が多いことから、不安の解消にも努めている。実習生の受け入れは多く、保育士を目指す学生を中心に、年間50～60人の実習生を受け入れている。実習終了後はアンケートを取り、また、ボランティアの登録をお願いしている。受け入れについては職員の負担もあるが、人材確保の面や、福祉現場の人材育成の面からも、引き続き受け入れを行っていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結果

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページを活用して、運営の透明性を確保する情報の公開を行っている。また、年2回発行する広報誌「箱根恵明だより」でも、会計報告を行っている。「箱根恵明だより」は、県内外の学校や行政、関係機関、地域などに広く配布している。令和元年に現住所地に移転したが、移転に際しては、町や地域の自治会にも説明を実施して、園の概要や取り組みの内容を伝えている。地域が主催するソフトバレーボール大会やグランドゴルフ大会には、場所を提供して参加している。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。

b

	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	

【コメント】

理事会や県指導監査により、経営や運営について、チェックや指導を受けている。1法人1施設の運営のため、会計士などによる監査は受けていないが、公費での運営のため、公正・透明性が重要なことを認識している。事務職と連携を取りながら、適正な運営を心掛けている。また、同一建物内に、学校法人の恵明学園小学校があり、公認会計士にいつでも相談ができる体制を整えている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
□地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
□子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
□施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
□子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
(児童養護施設) □学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

地域の自治会から、園の交流ホール、小学校のグラウンドや体育館の利用希望があり、町や自治会と協議して利用やルールについて文書を作成している。また、観光協会主催のお祭りの手伝いや、地域の葬儀の際の駐車場の提供などに協力している。子どもたちは、バスを使って通学し、コンビニエンスストアへの買物やアルバイト先など、当たり前前に地域に出かけて生活している。自治会の役員からは、挨拶の仕方などを教わり、日常的に関わりを持っている。

② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
□ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
□地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
□ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
□ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

主任児童指導員が窓口になり、ボランティアの受け入れを行っている。「ボランティアをするにあたって」に受け入れの姿勢を示し、受け入れ時には養成校への説明や、説明会を園で行い、積極的に受け入れを行っている。子どもたちとの交流だけでなく、環境の整備や音楽交流などに、ボランティアが活動している。現在、定期的に活動しているボランティアはいないが、人材の確保・定着の観点からも受け入れに力を入れている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。	
① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
□当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
□職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
□関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
□地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
□地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

児童相談所とは、入所前から退所後まで、随時面談を行い、自立支援計画検討会においても常に連携している。同一建物内に小学校があることから、日常的に園の職員と教員が連携し、職員会議も一緒に行っている。年1回、中学校の教員の家庭訪問があり、全体会で事業報告を行い、学年に分かれて懇談会も開催している。地域の自治会や交番、消防署、医療機関とも連携している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

園が所在する地域だけでなく、近隣の地域の会合や行事にも参加して、交流を図っている。地域の自治会だけでなく、小学校からの理事が地域にいたり、町会議員が園の非常勤職員でもあり、要望や相談、地域の現状などを聞いている。地域活性化のためのワークショップにも参加して、地域住民との意見交換も行っている。また、町立中学校の評議員を副園長が担っており、子どもの支援や養育について情報を伝え、意見交換を行っている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

園の設備の貸し出しだけでなく、地域の住民として、清掃活動や青少年育成会、消防団などの活動にも加わっている。自治会活動や体育協会の行事協力、防災活動など、毎年定期的に開催する活動に参加協力する他、他の取り組みについては、その都度対応している。地域は少子高齢化が進んでおり、子どもや若い職員が多くいる園としては、求められることが多い。園は町の広域避難所にも指定されており、町の防災との関わりも多い。こどもたち用に非常食などを備蓄する他、地域用の防災倉庫に場所を提供している。グラウンドは、大雪の際の雪の捨て場に提供している。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	第三者 評価結果 a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

子どもの養育・支援の理解を深め、実践につなげるため、「3つの心得」を毎週月曜日の申し送り時に、職員が読み上げている。子どもたちに対する職員の言葉使いや態度については、職員が自己評価を行っている。アドボガシーアプローチ委員会を設置し、毎年、全職員に対して権利擁護の園内研修を実施している。また、小学1年以上の子どもたちに、118項目の「安全感・安心感アンケート」を実施し、数値化して、子どもの園内での生活不安などの見極めを行っている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

子どもたちの写真や名前の掲示、掲載については、あらかじめ保護者に確認し、同意を得ている。中・高校生は個室を使用し、本人の許可なく部屋へ出入りしないなど、プライバシーに配慮している。プライバシー保護については、全国社会福祉協議会作成の「人権チェックリスト」を実施して、職員の面談時に個別に指導している。子どもへの面会時などに、手紙や子どもへのプレゼントの取り扱いを、保護者に説明している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

子どもの入所前に、保護者にパンフレットを提示し、子どもに園内やこれから生活するフロアなどを見学してもらい、一日のスケジュールや園の決まり事などをあらかじめ丁寧に説明している。小学生には園の同一建物内にある小学校の授業の見学や体育館などを案内している。また、子どもと同行しない保護者には、児童相談所を通して、保護者用のパンフレットや資料を渡している。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

子どもの入所時には、アレルギー検査などを行い、園の生活を問題なく送ることができるよう支援している。子どもたちには事前に見学に来てもらっているが、幼児の場合は、移動の負担を考慮して、副園長が一時保護所に面会に行き、関係作りに努めている。ここ数年、入所前に見学に保護者の同行がほとんどないため、園のパンフレットや資料は、児童相談所を通して保護者に渡している。また、保護者の面会に合わせ、園の取り決めなどを話している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

家庭引き取りや措置変更、卒園など、それぞれの状況に応じて、継続した支援に取り組んでいる。家庭引き取りについては、面会交流から始め、長期外泊、子どもや保護者の意見調整の流れを踏んで調整している。退所後2～3ヶ月に、児童相談所と一緒に家庭を訪問し、生活状況を確認している、また、園の行事やゲーム大会などの案内を送り、アフターケアを行っている。卒園して、自立生活に入る子どもには、社員寮のある職場を勧めている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

各ユニットで開催する「子ども会議」には職員も出席して、子どもの生の声を聞いている。また、意見箱「みんなの声」を設置し、意見箱の横に記入用紙を備えている。子どもたちからの献立の希望などは、できるだけ沿うようにしている。スマホの利用については、契約は園が行い、高校生から使用可能としている。月々の利用料は本人が支払い、園内では使用禁止にして職員が預かるなど、ルールを決めて使用している。女子からは、化粧の希望もあり、職員とルールを決めている。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

「みんなの声」の意見箱は、各ユニットに2ヶ所、職員室横に1ヶ所、設置している。設置場所は、子どもたちの希望で決め、子ども会議で意見箱の使用をアナウンスしている。「みんなの声」の意見は、副園長が確認し、「知ってもらっただけでいい」の欄にチェックが入っていても、支援検討会議で報告し、今後の対応を検討している。検討結果は掲示板に掲示している。苦情や意見の取り扱いは掲示して、また、入所案内にも記載して、保護者に周知している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

各ユニットにリビングがあり、年齢を問わず子どもたちの集いの場になっている。中・高校生もリビングで宿題をしたり、話をしている。リビングは、職員と話し合ったり、相談したりする場になっている。進路相談などの個人的な話は、個室にて行っている。ただし、進路担当が男性職員の場合は、女子の進路相談は個室の扉は開けて行うなど配慮して対応している。職員室は、小学校の職員室も兼ねており、職員の在室時は、特に子どもたちの入室を制限していない。ユニットでの調理時も、子どもが話しかけてくることが多くあり、キッチンも子どもたちの声を聞くスペースとなっている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

月2回、支援検討会議を開催し、ユニットで把握した子どもたちの意見について検討している。検討結果は、ユニットの職員から子どもたちに返している。外泊の希望は、外泊先や安全面を確認しながら、できるだけ本人の希望に添うように対応している。また、自転車に乗りたくないという希望には、乗る順番や収納の仕方、ルールなどを話して対応している。子どもたちが希望する食事のリクエストメニューにも応じている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

リスクマネジメントに関する委員会は設置していない。「これは危ないぞ、注意しよう報告書」として、ヒヤリハット集を作成し、全職員に周知して、安全確保に努めている。事故の発生から報告、改善までの流れは、マニュアルを定めている。特に、アレルギーのある子どもの対応については、全職員が周知して、食事の際には個別に対応している。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

各ユニットに「児童健康管理マニュアル」を配布して、職員に周知している。新型コロナウイルス感染症の対応は、国や県の対応を基本として、現在も引き続きアルコール消毒を心がけている。また、嘔吐物の処理や対応は、全職員がマニュアルに沿って行っている。特に小さい子どもは、日頃の様子を職員が確認、把握して、体調管理に努めている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

消防計画を作成し、月1回、避難訓練を実施している。訓練にあたっては、災害対策編成表に基づき、職員一人ひとりが役割を分担している。園は町の広域避難場所に指定されているので、夜間の開所訓練や備蓄品の確認も行っている。非常食を100名3日分備蓄し、リストを整えて、栄養士と主任保育士が管理している。また、近くに火山があるため、噴火による災害の対応訓練も行っている。女性の職員でも使えるよう、防犯用「さすまた」や撃退スプレーを備え、不審者訓練も行っている。外出時に災害があった場合は、まずは安否を園に連絡するよう、子どもたちや職員に周知している。

2 養育・支援の質の確保

(1)	養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

「児童養護の指導方針」を作成し、養育・支援の標準的な実施方法を、職員に示している。「児童養護の指導方針」は、職員の入職時に配布して、園内の新任研修の際に、副園長が内容を説明している。職員の人材育成と養育・支援のスキルアップを目的とした研修会を企画、開催している。子どもたちに対し、統一した養育・支援を実施するよう取り組んでいる。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

毎年5月に、各担当者が子どもたちの自立支援計画を策定している。また、年度末に目標が達成できたか確認している。自立支援計画は、子どもの意見を反映して策定している。状況に変化がみられた時は、ケース会議にて、随時見直しして、内容を検討している。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

自立支援計画策定の責任者を園長とし、副園長とユニットリーダーが内容を確認している。各ユニット職員が支援目標や方法を話し合い、最終的に自立支援計画検討会において、児童相談所が同席して決めている。内容については、家庭支援専門相談員や里親支援専門相談員、心理士と意見交換し、小学校などからも意見を聞いてまとめている。「施設生活」「就学進学就労」「心理ケア」「家庭環境調整・里親調整」の4項目について計画を立て、職員は自立支援計画に沿って、子どもの養育・支援を行っている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

年1回、検討会を開催して、自立支援計画を評価している。すべての子どもたちの計画の進捗状況と、目標の達成度を確認し、見直しを行っている。計画の実施方法や手順については、マニュアルで流れを確認するようにしている。児童相談所や学校、専門職など、園内外の機関の意見も聞いて策定にあたっている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもの育成録は、一定の様式により、各ユニットの担当者が毎日、記録している。病気や通院などの身体状況や、学校や児童相談所からの共有事項についても記録している。育成録は、園長や副園長が内容を確認して、気になる点についてコメントしている。記録の書き方はマニュアルを整備して、内容を確認できるようにしている。子どもの育成録は、職員がいつでも閲覧できるようにしている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

個人情報保護規程を定め、職員の入職時に、個人情報保護についての契約書を提出し、退職後も守秘義務の契約を行っている。子どもの記録や個人情報に関わる書面は、永久保存としているので、職員に取り扱いや管理体制を周知している。廃棄書類は、3年後と5年後に、シュレッダーで処分している。情報漏えい対策のひとつとして、夜間は園内に防犯システムを活用している。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見のための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

権利擁護は児童養護施設にとっての根幹にあるものとして、全職員が意識を持って取り組みを行っている。職員の3つの心得をまとめ、また、就業規則に権利擁護を明記して、職員会議で読み合わせを行っている。アドボカシーアプローチ委員会を置き、権利侵害防止の新任研修や、注意喚起のための記事の回覧、マルトリートメント（不適切な養育）が脳に与える影響のDVDの鑑賞などを行っている。職員はイライラしたり、感情を抑えられなくなった時の対処法などを学んでいる。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

今年度、「子どもの権利ノート」が改訂され、児童相談所の福祉司から説明があり、新しい「子どもの権利ノート」は、幼児は職員預かりとし、小学生以上は希望がなければ個人で持っている。園内でも、小学生以上の子どもに対し、子ども会議の中で話し合っている。小さい子どもには、日常生活の中で「思ったことを言っていんだよ」「友だちの気持ちはどうだったかな」など、その場にあった具体的な話をしている。「家に帰りたい」と言うてくる子どもがおり、職員はその時の気持ちを受け入れ、「今度、児童相談所の担当の人が来た時に話してみようね」など、児童相談所の福祉司の力を借りて対応している。

(3) 生い立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	<input type="radio"/>

【コメント】

一人ひとりの家庭の状況によって、子どもに生い立ちを伝えられるかどうか、児童相談所の福祉司と連携を取りながら、ライフストーリーワークを行っている。子どもから希望があった時をきっかけに、「そうだね、福祉司さんに聴いてみようね」と伝え、福祉司と相談の上進めている。家族と交流がある子どもは、家族と相談や確認を行いながら進める場合もある。事実を伝えた後の子どもの思いに配慮しながら、園での生活を前向きに考えていけるよう支援している。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	

【コメント】

園の「就業規則」や「指導方針」に、不適切な関わりの防止について明記して、申し送りなどの機会を通して、職員に周知している。また、国の「体罰によらない指導」を全職員に配布し、職員会議の後に読み合わせを行っている。「全養協通信」の情報などについて話し合いを行い、不適切な関わりがないよう、職員は常に意識しながら支援している。また、子どもの声を聞く「意見箱」を複数設置している。年2回、子どもに「安全感・安心感アンケート」を実施しているが、子ども同士のトラブルや、〇〇へ行きたいなどの希望が多く、職員からの不適切な対応については上がっていない。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	<p>A5 子どものものであった生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。</p> <input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	b
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

児童相談所から入所依頼があると、定員数やユニットの状況を確認しながら、受け入れを決めている。児童相談所の福祉司より子どもの状況の説明を受け、その後、子どもに見学に来てもらい、ユニットや部屋の様子を確認してもらい、入所を決定している。入所日までに、布団や日用品、衣類などを園で取り揃えて迎え入れている。小さい子どもは、職員と一緒に風呂に入ることも可能など、担当者との関係性を深められるよう一対一の時間を多く持ちながら支援している。乳児院で生活していた子どもは、これまでの生活の様子が把握でき、見学や宿泊などを何度か行い、不安を軽減してから入所している。入所後も乳児院との交流は継続し、同窓会などにも参加している。同窓会に参加するか迷っていた子どもが、行ってよかった、担当だった職員に会えたと喜んで帰ってきたこともある。

②	<p>A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。</p> <input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

日々の生活の中で、生活のスキルを上げられるよう取り組んでいる。中学生以上は自分の部屋の片付けや掃除、洗濯などができるよう働きかけている。食事はすべてユニットで作り、子どもたちの目の前で調理をしている。ひき肉が残ったとき、何か作ろうと話が出て、今まで調理をしたことがない子どもが、「見ていたからできる」と言っていて、煮込みハンバーグを作ったこともある。自立支援計画に基づき、卒園間近になると、子どもたちは自立訓練室で一人暮らしの体験ができるようにしている。子どもたちのOB会があり、園のイベント開催時にはボランティアとして活動している。卒園後も園を訪れる子どもは多く、相談などにも対応している。民間団体の「巣立ちプロジェクト」の協力も得ている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果
<p>① A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p> <p><input type="checkbox"/>職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。</p>	<p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>ユニットを「家庭」として、職員はユニット内の子どもの生育歴や生活歴、入所理由などをすべて把握して支援している。子どもが感情をコントロールできず、時には職員への暴言や暴力につながる場合は、表面の行動だけを捉えるのではなく、その時の心の中の思いを聞き、その思いにどう対処していったらいいのかを考える機会を設けている。信頼＝安心と理解し、「安全感・安心感アンケート」を行っている。子ども一人ひとりの職員への安心感がわかり、子どもの気持ちの具合を感じることができる。</p>	
<p>② A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。</p> <p><input type="checkbox"/>生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。</p> <p><input type="checkbox"/>基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。</p>	<p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p> <p>バランスの取れた献立を栄養士が立て、実際の調理は、各ユニット内のキッチンで保育士が行っている。調理の際はキッチンを離れられないため、子どもたちも側にいて、話をしたり、相談をしたりとコミュニケーションの場としている。子どもたちは、実際に調理をしている場面を常に見ているため、自然と作り方を覚え、残った材料を工夫して自分で調理している子どももいる。小さい子どもには絵本の読み聞かせなどを行いながら、安心して入眠できるように支援している。大きい子どもも、寝る前の時間にできるだけ一対一の時間を作るようにして話を聞いている。小さい子どもとスキンシップを多くとり、抱っこやおんぶをして、愛着関係を築くようにしている。</p>	
<p>③ A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。</p>	<p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p>
<p>【コメント】</p>	

小さい子どもは職員と一緒に学校の準備をし、小学校高学年の子どもは前日に自分で準備を行い、朝、職員が忘れ物がないかチェックするようにしている。職員が塗り絵やつまみ細工などをするのを見て、やってみたいという子どもがおり、最初はできなかったが、上手につまみ細工の花ができるようになったなど、声掛けをしながら実際にやってみることを大事にしている。発達障害の子どもには、できなかったことにポイントを置くのではなく、できたことをほめ、頑張ろうとする気持ちを大切にしている。外出したい、ハロウィンをやりたいなど、子どもたちから主体的に出た声を大事にして支援している。ハロウィンは、子どもたちが考えた仮装をして園内を回り、お菓子をもらって楽しんでいる。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○

【コメント】

小さい子どもには、トミカやレゴ、積み木、ブロックなど、年齢に合ったおもちゃや絵本を揃え、知育や運動面での発達を促す遊びができるようにしている。また、各ユニットで希望の新聞を取って読むなど、中・高校生は社会情勢も学べる機会を作っている。中学生は町の社会福祉協議会の協力のもと、土曜塾に通っている。サッカーや卓球などの部活に打ち込んでいる中学生もいる。高校生の中には、美術が得意で黒板アートなどの作品を作っている子どももいる。DVDをたくさん用意して貸し出ししており、子どもたちはルールを守りながら好きなアニメのDVDなどを楽しんでいる。遊びのボランティアが活動し、外で遊具を使ったり、自転車で遊んだりしてくれている。近隣の幼稚園とも交流があり、学習会、未就園児の会などがあり、一緒に楽しむ機会がある。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

家庭で身に付かなかったことを補うのではなく、今後の生活で必要不可欠なことを身に付けていくことが、園で行う家庭教育と考えている。人間関係ではコミュニケーションが必要であり、挨拶をする、ごめんなさいが言える、敬語を使うことなどを基本とした教育を行っている。友だちや職員との関係、地域の人たちとの関係を大切にしている。また、社会性を身に付けるため、アルバイト先や地域の行事、招待行事などでのTP0のあり方などを日頃から学んでいる。職員の3つの心得にあるように、子どもたちの模範となるよう、職員は常に配慮しながら支援にあっている。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですり食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○

<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ユニット内の調理は、子どもたちがとても楽しみにしている。子どもたちは家庭と同じような雰囲気を味わい、調理の仕方も自然に覚えている。ユニット調理では、食事量の異なる子どもにもその場で対応ができるため、残食量も少ない。作る人が見えるなど、家庭的な雰囲気を十分発揮している。時には栄養士と相談し、自分たちの好きな献立にしてもらったり、栄養士が引越し記念日や七夕、ハロウィンなどの行事食やお菓子を作っている。男の子たちに、補食としてチャーハンを作ったりしている。

(3) 衣生活

① A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちは成長や季節に合った衣服を着用している。年2回、子どもたちは好きな衣服を購入し、個人に合った服装をしている。衣類は箆笥にしまい、自分で整理を行っている。小さい子どもは職員と一緒に、箆笥の出し入れや季節の入れ替えなどを行っている。気に入った服に執着し、こだわって長く着ている子どもには、職員から洗濯の声掛けをしている。自分で好きな服を買うときには、露出度の少ないもの、TPOにふさわしいものを買うようにアドバイスしている。入学式や卒業式、七五三などは、園で保管してあるものを選んで着てもらっている。

(4) 住生活

① A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちは、混合寮や女子、男子の小規模のユニットで生活している。小学生は同一建物内の恵明学園小学校に通っている。小学高学年以上は基本個室を利用しているが、小さい子どもは、一人は寂しいと友達と一緒にいることが多く、子どもたちの希望で、夜はドアを開けている。建物は広く、明るく、清潔であり、子どもたちも大事に使っている。居室にはぬいぐるみやアイドルの写真など、自分の好きな物を置き、それぞれが居心地の良い空間を作り上げている。図書室や音楽室、大きな交流ホールなどがあり、室内でも身体を使った遊びができるようにしている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

毎朝、子どもたちの顔色や鼻水、咳、起きてからの動きなどを職員が確認し、検温も毎日行っていた。体調の変化がある時は、ユニット内で相談して受診につなげている。精神科に定期通院している子どもや、服薬が必要な子どもも数人いる。薬はケースに保管し、その日の勤務者が服薬を介助している。年度当初の健康診断や各種予防接種は、嘱託医が対応している。乳製品やゴマ、ピーナッツなどのアレルギーのある子どもには、別メニューを作り提供している。注意欠如多動症や知的障害、自閉症などの障害を持っている子どももあり、専門医と連携を取りながら支援している。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢・発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

生活安全委員会を置き、児童相談所の保健師と連携を取りながら、子どもや職員に対して、性に関する研修を行っている。小学生には、いいタッチや悪いタッチ、プライベートゾーンなどの話をし、中学生には男の子と女の子の身体の違いなどを伝え、高校生には性についての講義や実習を行っている。子どもの研修の前に、職員が内容を学ぶことで、子どもからの疑問や問題行動に答えられるよう努めている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけて出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの問題行動には、まずは被害を受けた子どもの安全を確保することになっている。また、周囲の子どもの安全にも配慮している。加害者の子どもは、気持ちを落ち着かせるためクールダウンの時間を設け、気持ちが落ち着いてから話を聞いている。何があったのか、どうして怒ったのか原因を聞きながら、その時の気持ちを振り返ることができるよう話し合いを行っている。その時の自分の気持ちが考えられるようになってから、どう対処するか考えている。気持ちが収まらない時は、園長やユニットの指導員、必要に応じて、児童相談所の職員が関わっている。職員が被害にあったこともあり、その時は警察にも指導をしてもらったことがある。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

年2回、子どもたちから「安全感・安心感アンケート」を行い、生活安全感や性的安全感を数値化している。何で安心できないのかという観点から、子どもの問題行動を確認し、暴力やいじめの防止に努めている。園内で暴力などがあった場合は、児童相談所の職員にも協力してもらい対応している。子ども同士のトラブルだけでなく、職員が被害を受けることもある。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

これまで心理療法士が不在であったため、児童相談所の心理司が中心になり、子どもの心理的ケアを行っていた。10月に心理士を採用し、現在、他施設で研修を行っているところである。心理室には、プレイセラピーや箱庭療法などの設備が揃っており、今後は子どもたちへの心理的ケアを実施する予定である。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	<input type="checkbox"/>

- 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。
- 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。

○
○

【コメント】

同一建物内に恵明学園小学校があり、園の子どもだけが通い、2学年一緒の複式授業を行っている。園と小学校の職員室が同じ部屋であるため、子どもたちの学習支援については関係が取れている。宿題などは各自個人で行うが、低学力の子どもや、落ち着いて取り組むことが困難な子どもは、ユニットの職員と一緒にリビングで行うことが多い。中学生は土曜塾に通い、夏休みは学校で補修を受けている。特別支援学級に通っている子どもがいる。特別支援学校へも通学はできる。

- ② A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。
- 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。
 - 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。
 - 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。
 - 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。
 - 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。
 - 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。
 - 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。

b
○
○
○
○

【コメント】

中学生になると、どこの学校に進むか、進路についての話し合いを行っている。園から通学するのか、家からするのかなど、家庭支援専門相談員と話し合っている。園からであれば生活の継続について、家からであれば家の環境や保護者の養育力などを確認して進めている。進路担当職員が高校進学のための情報を提供し、見学などの支援を行っている。進路選択は、本人の希望を第一に考え、家族や学校、児童相談所などと協力している。高卒後の措置延長のケースはないが、仕事を辞めた卒園生が園で生活し、再就職したケースはある。

- ③ A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。
- 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。
 - 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。
 - 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。
 - 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。
 - アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。

b
○
○
○
○

【コメント】

高校生は、生活の落ち着きを確認して、アルバイトを行うことができるようにしている。アルバイトを理由に学校を休んだり、生活の乱れを起こさないよう話し合っ、アルバイトを行っている。現在、3人が地域の飲食店などでアルバイトをしている。社会体験をし、卒園後の自立に向けて貯蓄を行っている。地域の商店がアルバイトの募集をしてくれるなど、地域との関係は深く、アルバイト先との連携も取れている。学校からの職場体験は、インクルーシブ教育実践推進校で実習を行い体験している。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

- ① A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。
- 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。

b
○

	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員が窓口となり、家族と対応している。また、児童相談所と連携して行っている。家族の状況や子どもの希望を確認して、面会や外出、外泊などの段階を踏んで、交流のプログラムを進めている。ステップアップ時は、保護者を含めミーティングを行い、状況を確認め合いながら進めている。中には子どもが「怖かった」などの気持ちを持つことがあり、時間を短縮して行ったり、その子どもに応じた無理のないプログラムに替えている。学校の授業参観や運動会などは、児童相談所と相談の上、可能な家族に案内を出している。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

親子関係の再構築は、児童相談所と連携を取りながら行っている。保護者の生活の状況によって、福祉事務所や保健所とも連携している。家庭引き取りについては、すべての関係機関と連携して対応している。園内に親子訓練室を設けているが、保護者との面会に使用することが多い。親子関係が希薄な子どもが多いため、宿泊での交流の実施は慎重に対応している。